

7 社会貢献

(1) 社会への貢献

① 社会との文化交流等を目的とした教育システムの充実度

【到達目標】

一般向けと卒業生・職能人向けの講座やリフレッシュスクールを開催しているが、「保健」「医療」「福祉」をキーワードとして、本学の保有する人材の専門分野を活かした講座の特色をより一層強化するプログラムを企画する。

【現状の把握】

2000(平成12)年4月にNICEセンターが社会に開かれた大学として地域社会に貢献するとともに、教育・研究等における生涯学習社会の推進並びに国際交流の活性・拡充に寄与することを目的として設置された。また、2001(平成13)年9月に札幌市内中心部に札幌サテライトキャンパスが開設されている(2001(平成13)年に毎日札幌会館に開設、2006(平成18)年に現在の日本生命札幌ビルに移転)。生涯学習事業や大学院講義、教育や研究の打ち合わせや会議など、広く利用されている。2008(平成20)年度では、職能人向けのリフレッシュスクールや一般向けの北海道医療大学セミナーなど100を超える生涯学習事業のうち、約5割をサテライトキャンパスで開催している。また、大学開放講座や地域連携セミナーは、当別町の総合保健福祉センターや、本学の当別キャンパス、また当別キャンパス内の薬用植物園や北方系生態観察園で実施されている。

【点検評価】

医療系総合大学である特徴を活かし、社会的ニーズも高い、健康や医療に関する特色ある講座を展開している。職能人向けの専門的な講座や、一般向けの講座など、内容も多様なプログラムとなっている。年2回「生涯学習事業のご案内」というパンフレットを作成、発行し、希望者に配布するほか、役所・区民センターなど公的な場所へも設置し、広く多くの市民の目に触れるよう広報活動を行っている。

【改善方策】

本学の特色を生かし、今後も生涯学習をはじめとした文化交流のシステムの充実を図る。

② 公開講座の開設状況とこれへの市民の参加状況

【到達目標】

すでに生涯学習事業を開始して20年以上が経過し、現在では100を超える講座を毎年開講する事業として定着している。内容の充実性を十分に見直し、社会的ニーズに合致した企画を今後も継続する。

【現状の把握】

本学では、教育理念および教育目標に基づき、本学の持つ諸機能と知的財産を広く社会に還元し、社会の開かれた大学として地域貢献するとともに、生涯学習社会を推進することに寄与している。2008(平成20)年度実績では、生涯学習事業およびその他開講のものも含めて、一般向け講座43、受講者数2,047名、職能人向け講座80、受講者数3,239名である。各講座の内容は下表の通りである。

一般向け		回数	受講者数
特別講演	・骨の健康づくりセミナーin 札幌 ・国際健康フォーラム	2	268
北海道医療大学セミナー	・臨床心理・言語聴覚セミナーⅠ ・臨床心理・言語聴覚セミナーⅡ ・ちょっと役立つ看護の知恵 ・健やかに生きるために	13	388
エルダースクール	・健康体操 ・とっておきの英語講座	9	155
地域連携セミナー	・当別学講座（当別町との共催） ・からだと心（江別市との共催） ・東札幌病院 ・北海道社会保険病院	12	462
大学開放講座	・薬草園を見る会 ・漢方・薬用植物研究会 ・オープンカレッジ（大学が共催）	9	774
合計		45	2,047

卒業生・職能人向け		回数	受講者数
薬学関連	・薬剤師リフレッシュスクール ・医療薬学セミナー ・専門薬剤師養成基礎講座（感染制御専門薬剤師コース）	21	517
	文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」 ・がん専門薬剤師養成基礎講座（インテンシブコース）	6	466
歯学関連	・歯科臨床セミナー	6	124
看護福祉 関連	・看護師リフレッシュスクール ・精神保健福祉リフレッシュスクール ・看護福祉学部同窓会セミナー	6	475
	文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」 ・がん看護（緩和ケア）インテンシブ研修	5	535
認定看護師 関連	・認定看護師リフレッシュスクール	6	223
心理関連	・臨床心理リフレッシュスクールⅠ～Ⅲ	8	187
言語関連	・言語聴覚療法公開講座 ・言語聴覚療法リフレッシュスクール ・言語聴覚療法セミナー	3	235
歯科衛生士 関連	・歯科衛生士公開講座	1	116
その他	文部科学省委託「社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業」 ・全人的ケアの視点に立つキャリアアップのための音楽療法講座	18	361
合計		80	3,239

【点検評価】

講師もほとんど本学の教員が務め、外部講師の場合でも、コーディネータとしてプログラムを立案計画するなど、それぞれの分野の特性を活かした講座の提供に貢献している。

【改善方策】

特段の問題点はなく、今後も社会貢献としての生涯学習事業を展開する予定である。ただし、全体開講数が若干増加傾向にあり、講師を務める本学教員の負担減少と内容の質の充実を維持するために、プログラムの若干の絞り込みを考慮している。

③教育研究の成果の社会への還元状況

【到達目標】

研究成果を広く社会に情報公開する。

【現状の把握】

ホームページ上で各教員の研究業績等を公表し、研究成果を社会へ広く情報公開している。

また、地域の自治体等が主催する公開講座・研修会・研究会・セミナーへの講師の派遣や、高校への出張講義、SPP（サイエンス・パートナーシップ・プログラム）事業の実施等で、教育研究上の成果を還元している。この他、高度職業人の育成に関しては認定看護師研修センター及び薬剤師支援センターの設置により対応している。また、文部科学省の社会人の学び直しニーズ取組支援プログラムに「全人的ケアの視点に立つキャリアアップのための音楽療法講座」及び「地域格差のない医療情報提供のための薬剤師・看護師教育プログラム」の2件が採択されている。国内外における共同研究も活発に行われており、2008（平成20）年度では国内外212件の共同研究が行われている。また2006（平成18）年度に「職務発明規程」を制定し、これに基づき、これまでに9件の特許出願を行い、学術研究の成果普及に努めている。

また、文部科学省の社会人の学び直しニーズ取組支援プログラムに「全人的ケアの視点に立つキャリアアップのための音楽療法講座」及び「地域格差のない医療情報提供のための薬剤師・看護師教育プログラム」の2件が採択されている。

さらに2007（平成19）年度には、本学初の大学発ベンチャーとなる「株式会社植物エネルギー」を設立し、北海道産の未利用植物素材を活用したスキンケア商品の販売がスタートしている。

【点検評価】

公開講座、研修会への講師派遣には、本務に支障がない限り、週1日を限度とし、支援協力する体制がとられており、各地域・団体が主催する事業に、本学教員が講師となって、その知的資源を還元している。

【改善方策】

医療系専門分野であることを生かし、専門的な教育研究分野の高度の内容や成果を分かりやすく社会に還元する。

④国や地方自治体等の政策形成への寄与の状況

【到達目標】

本学の各学部教員の持つ専門性及び研究成果を活かして、地元地方自治体をはじめとする社会的要請に応じて広く社会貢献を行う。

【現状の把握】

本学のミッションに連動し教員の専門分野は保健・医療・福祉分野が多く、特に国・地方自治

体等の関連する審議会や委員会への参加、活動領域を発揮する専門知識や技術提供の講演等を通じて派遣協力している。2008(平成20)年度に国や地方自治体等から政策形成に関して委員等の委嘱を受けたものは下記のとおりである。

薬学部で2名3件、歯学部で3名7件、看護福祉学部で18名27件、心理科学部で1名1件の合計24名38件となっている。国からは総務省1件、厚生労働省1件の委嘱があり、地方自治体からは北海道が18件と最も多く、次いで地元当別町の8件となっている。

この他、講演会やセミナー講師等も含めた公的機関等委員派遣総数は414件におよんでいる。

<2008(平成20)年度 国・地方自治体への委員派遣内容>

学部	職位	委嘱元	委嘱事由
薬学部	教授	当別町教育委員会	当別町生涯学習推進計画策定委員
	教授	北海道環境生活部	北海道PCB廃棄物処理計画委員会委員
		北海道総務部	北海道政策評価委員会委員
歯学部	教授	北海道保健福祉部	北海道先天性血液凝固因子障害等対策協議会委員
		北海道保健福祉部	北海道特定疾患対策協議会審査専門委員会委員
	教授	北海道保健福祉部	北海道介護予防市町村支援委員会委員
		空知保健福祉事務所滝川地域保健部	中空知保健医療福祉圏域連携推進会議歯科保健医療専門部会構成員
	教授	当別町	当別町総合計画審議会委員
		当別町	当別町政策評価委員会委員長
		当別町	当別町行財政システム再構プラン推進委員会委員長
看護福祉学部	教授	北海道保健福祉部	道民の健康づくり推進委員会委員
		札幌市衛生研究所	札幌市新生児・乳児マスキング連絡会議委員
	教授	北海道保健福祉部	北海道総合保健医療協議会地域医療専門委員会看護対策小委員会臨時委員
	教授	北海道保健福祉部	北海道介護予防市町村支援委員会委員
	准教授	北海道保健福祉部	北海道介護予防市町村支援委員会委員
	准教授	江別市	江別市社会福祉審議会委員
		北海道	社会福祉施設整備選定に関する有識者会議委員
	准教授	当別町	とうべつ健康プラン21改訂版策定委員
	講師	当別町	第4期当別町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定委員会委員
	准教授	北海道保健福祉部	専門分野(がん・糖尿病)看護師育成検討会委員
		北海道保健福祉部	北海道がん対策推進協議会委員
	准教授	北海道石狩保健福祉事務所保健福祉部	北海道江別保健所及び千歳保健所感染症診査協議会感染症部会委員
	教授	北海道社会福祉協議会	北海道社会福祉総合基金運営委員会委員
		北海道社会福祉協議会	北海道介護実習・普及センター運営委員会委員
	教授	石狩市	石狩市社会福祉審議会委員
	教授	北海道社会福祉協議会	北海道高齢者虐待防止推進委員会委員
		北海道保健福祉部	北海道総合保健医療協議会地域医療専門委員会臨時委員
		北海道保健福祉部	北海道身体拘束ゼロ作戦推進会議委員
		北広島市	北広島市保健福祉施策懇談会委員
	教授	当別町	当別町地域福祉計画推進委員
	教授	北海道保健福祉部	北海道精神保健福祉審議会
		北海道	北海道障害者介護給付費等不服審査会委員
	教授	北海道保健福祉部	福祉環境アドバイザー
	准教授	札幌市生涯学習振興財団	さっぽろ市民カレッジ企画委員会委員
		総務省政策統括官(情報通信担当)	地域情報化アドバイザー
	教授	厚生労働省医政局	「看護の質の向上と確保に関する懇談会」検討会構成員
	准教授	当別町	情報公開・個人情報保護審査会委員
心理科学部	教授	北海道保健福祉部	北海道特定疾患対策協議会審査専門委員会委員

<2008（平成20）年度公的機関等委員派遣件数（講演会・セミナー講師含）>

	教授	准教授	講師	助教	小計
薬学部	20	14	6	0	40
歯学部	47	11	15	9	82
看護福祉学部	82	66	22	4	174
心理科学部	43	34	9	0	86
個体差医療科学センター等	15	16	1	0	32
全学計	207	141	53	13	414

<2008（平成20）年度公的機関等委員派遣件数（地域別）>

	薬学部	歯学部	看護福祉学部	心理科学部	個体差医等	小計
札幌市	18	33	96	34	15	196
当別町	7	3	5		1	16
江別市	1	3	3	1		8
千歳市	1	1	4	1		7
旭川市		1	2	2	1	6
滝川市		1	4	1		6
岩見沢市	1		1	2	1	5
帯広市		1		2	2	5
美唄市		1	3	1		5
石狩市			3	1		4
小樽市	1	1	1		1	4
苫小牧市		2		1	1	4
浦河町			4			4
恵庭市		1	2			3
稚内市				3		3
富良野市	3					3
その他 (8地域)	網走市1	北広島市1	北広島市1・北見市1 新篠津村1・松前町1	留萌市2・室蘭市1 網走市1・北見市1 釧路市2・新篠津村1 松前町1	室蘭市1	16
その他 (19地域)		新ひだか市1 小清水町1 静内町1	砂川市1・登別1 函館1・根室1 厚真1・池田1 倶知安1・栗山1 鹿追1・新得1 むかわ1	夕張市1・士別市1 瀬棚町1・増毛町1	白糠町1	19
道内小計:43地域	33	52	143	62	22	314
東京都	4	16	17	9	3	49
神奈川県		4	3	1	1	9
福岡県	1	1		4		6
大阪府	1		2	1	2	6
その他 (17地域)	沖縄県1	山形県1・埼玉県1 新潟県1・愛知県1 島根県2・岡山県1 長崎県2	秋田県3・福島県1 千葉県2・富山県1 石川県1・兵庫県1	宮城県1・山形県2 福島県1・兵庫県1 愛媛県1・長崎県2 沖縄県1	広島県2	30
道外小計:21地域	7	30	31	24	8	100
合計:64地域	40	82	174	86	32	414

【点検評価】

公的機関等委員派遣総数は414件におよんでおり、助教以上の教員一人当たりで1.40件となっている。学部別では、看護福祉学部が最も多く、42%を占めている。地域別でもほぼ全国からの派遣要請に応えている。

【改善方策】

教員が持つ教育研究の専門的な資産をわかりやすく公開し、地域へ還元できる情報を開示する。

⑤大学の施設・設備の社会への開放や社会との共同利用の状況とその有効性

【到達目標】

現状を維持し、利用者へのサービス向上を図る。

【現状の把握】

2001(平成13)年9月より札幌市内中心部に設置されたサテライトキャンパスは、2006(平成18)年10月に、これまでの毎日札幌会館から日本生命札幌ビルに移転し、253.44㎡を有する。内部は、講義室A・B、会議室A・B、研究調査室、となっており、講義室A・Bは、二分割したまま別個の講義室として、また間仕切りを取って、100名以上を収納できる大講義室としても使用できる。

パソコン、液晶プロジェクター(天吊1、移動式1)、OHC、ホワイトボードなどがあり、生涯学習事業、大学院講義、その他さまざまな会議や打ち合わせ、研究調査などに利用できるよう考慮されている。大学関連だけでなく、同窓会や後援会関連の理事会や集会にも利用されており、予想以上の稼働率となっている。

さらに大学関連だけでなく、同窓会や後援会関連の理事会や集会にも利用されており、予想以上の稼働率となっている。

また、薬用植物園、薬用温室、北方系生態観察園の一連の施設は市民に開放されており、「薬草園を見る会」をはじめとして見学会などが実施されている。2008(平成20)年度の来園者は、4,271名にのぼっている。

【点検評価】

サテライトキャンパスは稼働率が高いため、予約が重複し、申込があっても受けられないケースもある。部屋数が限られている以上、すべての要求に応えることが難しい状況である。

【改善方策】

部屋の数、面積等、現状で最善ではないと思われるが、特段の拡張は予定していない。また、様々な利用場面で持ち込まれる機材や資料等を収納するスペースも少なく、そうした側面的問題に対処する。